

群 教 セ	G02 - 03
	平 17.230集

マルチメディア資料集

「群馬県を調べよう」の作成と活用

特別研修員 山口 一彦 (桐生市立新里中学校)

〈研究の概要〉

本研究では中学校社会科地理的分野の単元「都道府県を調べよう」の学習において、自分たちの住む身近な地域である群馬県について「自然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」などの項目の画像を整理してまとめたマルチメディア資料集「群馬県を調べよう」を作成し、活用した。本資料集の活用により、生徒は興味・関心をもち、意欲的に調べ学習に取り組み、学習課題の設定や解決に役立つことを検証した。

キーワード 【社会—中 地理 課題設定 興味・関心 マルチメディア】

主題設定の理由

中学校学習指導要領社会科地理的分野の目標の一つに「地理的事象を見いだして追究し、地理的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地理的特色をとらえる視点や方法を身に付ける」とある。それを受けて第1学年では「都道府県を調べよう」という単元で、47都道府県の中からいくつかの都道府県を取り上げ、課題解決学習を進めていく。

生徒は各都道府県の中から、各自の興味・関心や問題意識をもとに調べる対象の都道府県を選び学習課題を設定し、その「自然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」などの項目を中心にインターネット、図書室の資料や文献、新聞、聞き取り調査などを通して具体的に調べ学習を進めていく。

さらには環境や国際化といった項目についても取り上げていく。その導入として、自分たちの住む身近な群馬県を扱い、自ら設定した課題を調べ学習を通してとらえ、その後の他の都道府県調べへと展開していく。

生徒は小学生の時に社会科の学習で新里町や群馬県について概要を学んでおり、また中学校でもこれまでに「身近な地域を調べよう」の学習において新里町についてインターネット、図書室の資料や文献、野外観察学習、発表会などを通して学んできた。

さらに歴史学習においても古代の地域の生活や文化、習慣についても若干学んできている。これらの既習事項をもとに、都道府県調べにおいて「自

然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」などの項目を通して、より深く、広く理解するための調べ学習を進めていくことによって単元の目標の達成につながっていくものと考え

る。また本学年の生徒はアンケート調査やこれまでのテストの結果によると、社会科、特に地理的分野に関しては興味・関心が低く、知識・理解という面でも課題が残り、課題設定、解決の経験も乏しく学習課題をとらえる視点や方法もまだ身に付いていないのが現状である。

以上のことから群馬県に関するマルチメディア資料集「群馬県を調べよう」を作成し、活用することで、生徒の興味・関心を高め、学習課題の設定、解決に役立てたいと考える。また他の都道府県との比較をすることによって今後の学習にも生かせると考える。画像や音声などが豊富なマルチメディア資料集は、それだけで生徒を引きつける力をもっている。地域の画像が豊富であれば、地域に対して新たな発見が生まれ、自然に興味・関心は高まってくる。

この資料集は教師がまず足がかりとして理解させたい項目を提示し、インターネットや本のように調べるものを探したり絞ったりするのに時間や手間をかけることなく効率よく学習させることができる

と考える。また、この資料集を使って調べ学習をしていくことは、地理的特色についての自ら興味・関心をもった視点に関して学習課題を設定し、課題を解決するために有効であると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

中学校社会科地理的分野「都道府県を調べよう」の学習において、群馬県の「自然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」などの画像を分かりやすく整理してまとめる。そして生徒の興味・関心を高め、課題設定、解決に役立ち、なおかつ地理的特色をとらえることができるマルチメディア資料集「群馬県を調べよう」を作成し活用する。

研究の見通し

中学校社会科地理的分野「都道府県を調べよう」の学習において、群馬県の「自然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」などの画像を分かりやすく整理してまとめたマルチメディア資料集「群馬県を調べよう」を作成し活用する。それによって生徒の興味・関心を高め、課題設定、解決に役立ち、なおかつ地理的特色をとらえさせることができるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア資料集「群馬県を調べよう」の概要

(1) 基本的な考え方

生徒の興味・関心を高め、中学校社会科地理的分野「都道府県を調べよう」の学習における生徒の自主的な学習活動を促すことができるようにするために、以下の点に留意してマルチメディア資料集「群馬県を調べよう」を作成、活用していくことにする。

本資料集はいつでもどこでも手軽にコンピュータで使えるようにWeb形式で作成することにする。また導入の段階で活用し、生徒の興味・関心を高めたり課題設定の一助にしたりするものであると考へ、作成にあたる。具体的には自分で撮影、収集した静止画や動画を中心に、群馬県総合教育センター楽しい授業作り教材コンテンツ集(G-TaK)からも一部、静止画や動画を活用したり、操作しやすくデザインの工夫もしたりしながら作成していく。

ア 興味・関心を高める工夫

本資料集はコンピュータの機能を使った教材である。群馬県の概要を多面的にとらえられるようにするために、様々な静止画や動画を収集し提示

できるようにした。画像は群馬県全般にわたって集めたが、中でも教師がおさえておきたい、また深めておきたい内容である「自然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」に重点を置いた。

これらの内容を足がかりとして各自の学習課題の設定や、解決のために役立てられるようにする。また群馬県のさまざまな諸機関へのリンク集を充実させたり、リンクにたどりやすくしたり、画像やボタンからもリンク先に移動できるようにしたりするなどした。さらにはアニメーションやロールオーバー機能などを用いて動きのあるページにするなど分かりやすく提示した。さらには授業後の検証のために、生徒用のアンケート調査のページも用意し役立てた。

イ 見やすく、分かりやすい工夫

それぞれのテーマや内容が簡単に把握できるように、各ページともサムネイル(縮小画像)の一覧表を表示し、そこをクリックすると拡大した画像や説明が見られるようにした。また、それぞれの画像に簡単な解説を付け、知ってる場所や行ったことのある場所を確認したり、疑問に思った点や面白いなと思う所を見付けたりするのに役立てた。そして、コンピュータ操作が苦手な生徒にも使いこなせるように、分かりやすく資料を提示した。さらには各ページの壁紙やボタンなどのデザインを統一して見やすく簡単な操作で調べることができるように配慮した。

ウ 他の都道府県と比較する工夫

今後の他の都道府県の調べの学習にも生かせるように、群馬県の様子と他の都道府県の様子を比較しやすいように画面をリンクさせ、簡単に切り替えて見られる設定にした。あくまでも群馬県の資料に重点を置き、それに対比できるような同じ項目の他の都道府県の資料を提示するなどの工夫をした。

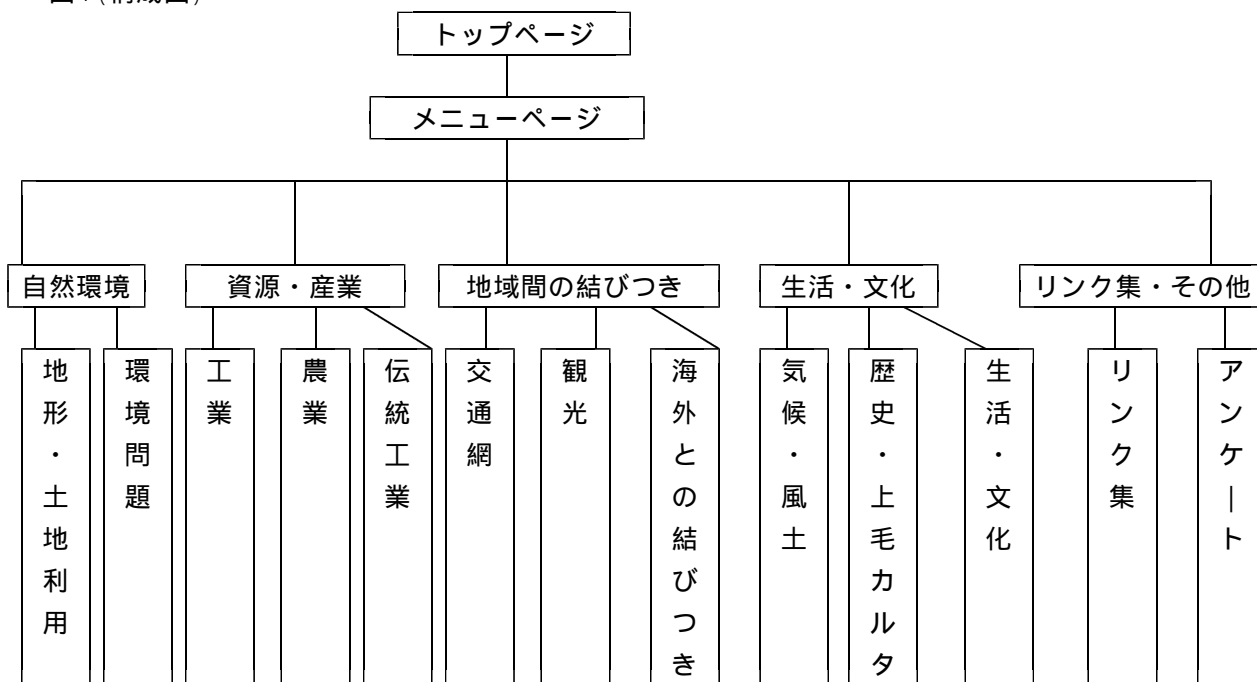
エ 自ら気付き疑問を持たせる工夫

画像に関する説明書きは極力最低限とし、生徒に「ここはどこだろう」「これは何だろう」といろいろと考えさせ、調べさせる中で、それについての内容を補足させ理解させるようにした。これによって生徒自らが気付き考えさせることができると思へた。

(2) マルチメディア資料集「群馬県を調べよう」の構成

構成図(図1)は以下の通りである。

図1 (構成図)



2 教材の内容

(1) トップページ

本資料集を起動すると図2のようなトップページが表示される。トップページには題材名と群馬県の特徴的な画像をスライド形式で配置し、親しみのあるページにし、生徒の興味・関心を高めるようにした。操作方法はキャラクターが説明する方式をとっている。「ここをクリックしてね」の下のキャラクターをクリックするとメニューページが表示されるようになっている。

図2 トップページ



(2) メニューページ

図3はメニューページである。上半分はクリックすることで「自然環境」「資源・産業」「地域間の結びつき」「生活・文化」「リンク集・その他」の各項目のトップページに移動できるようにした。

また下半分には人口や面積、県の花・木・鳥など群馬県の主な概要を示し、これから調べる群馬県についての意識付けができるようにした。さらに右上には他の都道府県の画像へ移動できるようにリンクを設定した。

図3 メニューページ



(3) 「自然環境」のページ

図4は自然環境のページである。サムネイルで提示し、クリックすると大きな画像と説明を入れた。群馬県の特徴的ないくつかの地域の地形(山、川、湖)、土地利用の様子(大間々扇状地、沼田盆地、片品川河岸段丘、関東平野、吾妻渓谷)、自然の様子、環境(安中、尾瀬、渡良瀬川)の四つの項目からさらに進み動画を中心に静止画でも示し説明を入れた。

図4 自然環境のページ



(4) 「資源・産業」のページ

図5は資源・産業のページである。画像がスライド形式で動くような動きのあるページにした。工業（自動車、電機、ビールなどの工場の様子）、農業（米、キャベツ、ネギ、こんにゃくの栽培などの様子）、伝統工業（だるま、織物、こけしなど）に視点を当て提示した。それぞれから各項目の画像へと進んでいく。

図5 資源・産業のページ



(5) 「地域間の結びつき」のページ

図6は地域間の結びつきのページである。こちらサムネイル形式になっている。群馬県の交通網（鉄道と道路の地図）、観光（各観光地の様子）、貿易（海外運輸の様子）、海外姉妹都市と交流・在県外国人の様子（大泉町）について提示した。

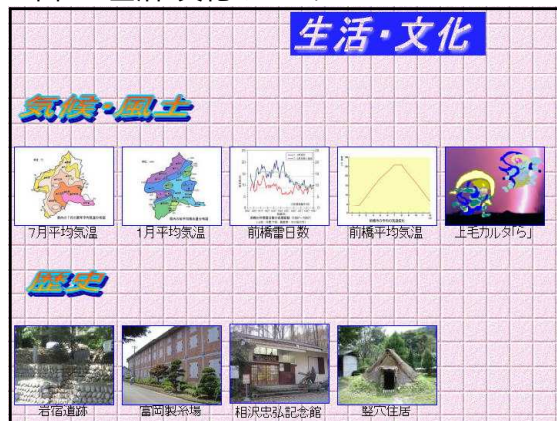
図6 地域間の結びつきのページ



(6) 「生活・文化」のページ

図7は生活・文化のページである。群馬県の気候・風土（気温、降水量、雷雨）、生活（習慣、食生活、名物など）、文化（祭り、伝統行事）、歴史（岩宿遺跡、富岡製糸場など）上毛カルタに視点を当て提示した。

図7 生活・文化のページ



(7) リンク集のページ

図8はリンク集のページである。群馬県の関係諸機関など群馬県を調べるのに参考となるであろうリンク先を提示した。また都道府県クイズをフリーソフトから掲載し興味・関心を高めるようにした。更にはアンケートコーナーを設け検証にも役立てるようにした。

図8 リンク集のページ



3 実践の結果と考察

(1) 実践の内容

題材名 「群馬県を調べよう」

題材のねらい 群馬県についての地理的特色をとらえるとともにその視点や方法を身に付ける。

対象 1年C組 37名

実践計画 計8時間

時間	学習内容	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県について話し合う。 各自が調べる学習課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県についての様々な話題を取り上げ、既習事項から考えを広げさせる。 知りたいことや疑問に思うことを話し合わせ、学習課題設定のてがかりとさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> 本資料集の使い方を知る。 前回考えた学習課題も参考に本資料集を活用して課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の都道府県のことにも参考に、比較しながら調べことを助言する。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 似ている課題ごとにグループを作り情報交換をする。 本資料集も含めてインターネットや書籍等も活用しながら群馬県について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットや書籍の活用も必要に応じてさせる。 調べ終わった生徒は発展した内容を調べるように助言する。 情報交換をとおして今後の活動につながるようにする。
5 6	<ul style="list-style-type: none"> 調べた内容を各グループの方法でまとめる。発表し意見交換する。 まとめをしてみても気が付いたことを話し合い群馬県について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめ方には模造紙、レポート、新聞、地図、プレゼンテーションソフトなどがあることを助言する。
7 8	<ul style="list-style-type: none"> 調べ、まとめた内容の発表会をする。 発表後は質問会を開き理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表を聞きながらメモをさせ、発表後の質問に使わせ理解を深めさせる。

(2) 結果と考察

ア 興味・関心について

まず1時間目の導入の段階では教科書など教材など一切使わず「群馬県について知っていることを出そう」「群馬県といえば・・・？」でしょう、という投げかけから始め、身近な話題でもあり、普段大人しい生徒も含め全員の生徒が数多くの項目について挙手、発表でき意欲的に取り組む姿が見られ授業も盛り上がった。数多くあがった項目を黒板に項目ごとに分け板書した。「それでは次時から群馬県について各自が課題を決め調べ学習をしていきます」といって授業を閉じた。2時間目にはコンピュータ室で本資料集を活用した検証授業を行った(図9)。前時の項目を簡単に思い出させ、本資料集の使い方を説明した。最初の生徒の反応は「これは何だろう」という様子であった。説明を進めていく中、生徒からは「すごい」という声が上がりがこれからの調べ学習が楽しみなようであった。次に生徒自身に操作をさせ、まずは課題を設定することから始めさせた。生徒は食い入るように画面に見入っていた。特に視覚に訴える静止画や動画のもつ効果は大きかった。時間内にすべての生徒が学習課題を決定でき、同じような課題ごとにグループを作ることができ次時へつ

なげることができた。アンケート結果から、37名中20名の生徒が興味・関心がとても高まり、16名の生徒が興味・関心が高まったと回答した(図10)。授業後も「楽しかった」「もっとやりたい」「何について調べようか」「何で調べるようか」「分かりやすい」「わくわくした」等の声も聞かれた。この結果から本教材が生徒の興味・関心を高めるのに有効であったことが分かる。

イ 学習課題設定の有効性について

前述したように今回の学習では生徒一人一人が本マルチメディア資料集を参考に自らの興味・関心に基づいて学習課題を設定していく。そこで、本マルチメディア資料集の有効性についてのアンケート調査の結果から37名中24名が「有効であり大変参考になった」と回答している。また11名が「参考になった」と回答している(図11)。この結果から本マルチメディア資料集は生徒が学習課題を設定する上で有効であったことが分かる。主な課題の概要は「工業」(自動車・パチンコ・即席麺など)9名、「上毛カルタ」(桐生の機織りなど)5名、「名所・観光地」(温泉・山など)6名、「歴史・史跡」(岩宿遺跡・富岡製糸場・新田義貞など)4名、「自然環境」(尾瀬・渡良瀬川など)8名、「名物・食事」(焼きまんじゅう・こんにやくなど)

4名であった。

ウ 学習課題解決の有効性について

学習課題解決の有効性については、ほとんどの生徒が本マルチメディア資料集を活用し、課題解決に取り組んでいた。そのためか、アンケート結果から37名中36名が「有効であった」と回答している(図12)。この結果から本資料集は生徒が学習課題を解決をする上で有効であったことが分かる。

その後の授業展開については似たような課題を持つグループごとに分かれ本資料集を始めとしてインターネットや図書室の資料等も活用し調べ学習、まとめを行っていった。結果的には、すべてのグループが模造紙にまとめるといった形で行った。最後に行われた発表会では模造紙を黒板に掲示しそれぞれグループごとに調べた内容を発表していき、最後に質問会を持った。授業後のアンケートでは全員が今回のマルチメディア資料集を活用した調べ学習において、群馬県について地理的特色をとらえ、さらにその視点や方法を身に付けるのに役立ったと考える。群馬県についての学習終了後には生徒それぞれが自らの興味・関心をもとに他の都道府県から一つを選び調べ学習を進めた。ここでは生徒は本マルチメディア資料集も活用し、課題解決のための視点や方法を身につけるといった群馬県調べの学習経験を生かして有意義な調べ学習ができていた。

研究のまとめと今後の課題

本研究では、中学社会科地理的分野「都道府県を調べよう」の学習において、生徒の学習活動を支援する教材を作成し、活用させ、その有効性を検証してきた。教材の作成については、実践結果にあげたとおり、群馬県に関する様々な静止画や動画を生徒に提示できたことから生徒の興味・関心を高めることができた。

従って、群馬県の学習に興味・関心をもつきっかけとなったマルチメディア資料集ができたと考える。また本資料集の活用により、生徒の自主的な学習活動が促され、本単元の目標に迫ることができた。

今後の課題としては、生徒の実態に沿うようにさらに教材を充実させることである。また学習指導計画の見直しを行い、時間的に無理のない活動ができるように年間指導計画に位置付けることである。

図9 学習への取り組みの様子



図10 興味・関心が高まったか

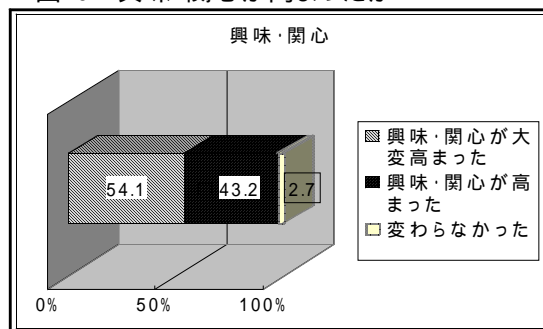


図11 課題設定に有効であったか

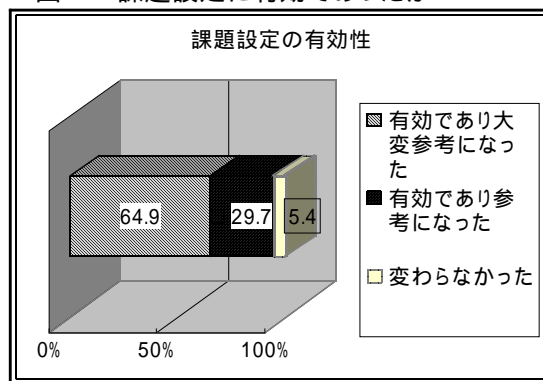
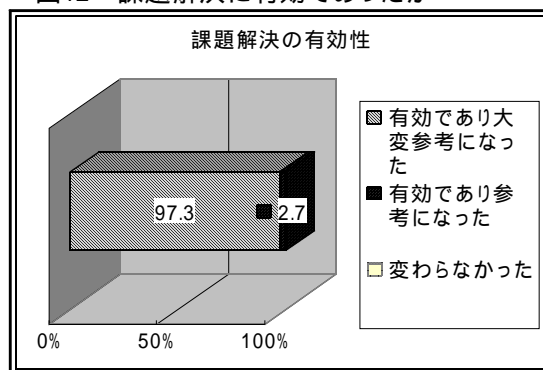


図12 課題解決に有効であったか



< 使用ソフト >

・IBMホームページビルダー Version 9

(担当指導主事 小池 千秋)

